

疾患から探す

耳の病気 耳の図

- 耳垢(耳あか)
- 耳鳴り
- 外耳炎
- 慢性中耳炎
- 難聴(補聴器)

鼻の病気 鼻の図

- アレルギー性鼻炎
- 鼻血(鼻出血)
- 副鼻腔炎(急性・慢性)

のどの病気 のどの図

- 急性咽頭炎
- 急性喉頭炎
- 急性扁桃炎

子どもの病気 子供の図

- 急性鼻炎
- 中耳炎(急性中耳炎、滲出性中耳炎)

下線の部分から下記へリンクで飛ばして下さい。

耳垢(みみあか)

耳垢が外耳道につまることにて起こります。

当院ではお子さんの耳掃除も顕微鏡下で安全に行います。

耳鳴(みみなり・じめい)

耳鳴りは、なんらかの聴力障害を持っている方に多く起こります。絶え間無く

聞こえる場合は、耳鼻咽喉科にご相談ください。

年齢的な変化だけでも起こることが多く、完全に治すことは難しい場合もあり

ますができる限り対応させていただきます。

外耳炎(がいじえん)

耳かきのやり過ぎなどにより、耳の穴の中の皮膚が炎症を起こし、痛みや痒み

をともないます。

耳だれが出てくることもあり、ひどくなるとカビが生えて治りにくくなつた

り、難聴や耳閉塞感(じへいそくかん)をともなう場合も見られます。

慢性中耳炎(まんせいちゅうじえん)

中耳炎を繰り返す事により、鼓膜に穴が開いてしまう病気です。聞こえが悪くなるだけでなく、耳だれといって耳から液体が出るようになったり、段々と聞こえが更に悪くなってきたりする事があります。状態に応じて、鼓膜の穴を塞ぐ手術のため、総合病院に紹介とすることがあります。

難聴(なんちょう)

内耳(ないじ)を中心にした難聴の代表として突発性難聴、メニエール病などがあります。耳鳴りや回転性めまいが起こることもあります。

突発性難聴は、あるとき突然に耳の聞こえなくなる病気です（通常片側）。しかし、早期に治療(主に内服ホルモン剤治療)を開始すれば聴力回復の可能性が見込めることがあります。

メニエール病はめまい発作を反復する難治性(なんちせい)の病気です。難聴の程度は初期は軽く耳閉塞感や低い耳鳴りが中心のことが多いですが、進行すると徐々に悪化してしまいます。主に内服治療が中心ですが慢性的な病気です長い間経過を見る必要があります。

また年齢的な変化による難聴が疑わしい場合は、補聴器をおすすめすることもあります。

アレルギー性鼻炎(アレルギーせいびえん)

アレルゲン（アレルギー症状を引き起こす原因となる物質）を吸入することで、くしゃみや鼻水、鼻づまりなどの症状が出ます。のどに痒みを伴うことはありますが、風邪と違って痛みや熱がでることはあまりありません。

アレルゲンの内、花粉(特にスギ)によって症状が引き起こる場合を花粉症といいます。

通年性(つうねんせい)のアレルギー性鼻炎の場合はダニやハウスダストによるものが多いです。内服や点鼻薬による症状を抑える治療が一般的ですが、他の治療としてレーザー治療や舌下免疫療法(ぜっかめんえきりょうほう)などがあります。

当院でも今後随時導入を予定しております。

急性副鼻腔炎(きゅうせいふくびくうえん)

風邪の症状が出てから1週間ほどすると、風邪に続いて細菌感染が副鼻腔に起こり、発症します。膿のような鼻汁が出ることがあります。頬や目の奥の痛み、頭痛、頭の重たい感じ、発熱などをともなうことがあります。時に激しい痛みを生じることがあり、点滴治療や手術が必要になることがあります。

慢性副鼻腔炎(まんせいふくびくうえん)

急性副鼻腔炎が治らずに慢性化した病状を慢性副鼻腔炎と言います。がんこな鼻づまり（鼻閉）で、一般的に「蓄膿症」と言われます。

症状としては、鼻汁が絶えず出て来て、よく鼻をかむ、のどに落ちる、常に鼻がつまっていて、口で呼吸をしている、いびきをかく、においがわからない、頭痛がするなどがあります。

CT を撮影することで容易に診断が可能です。

軽ければ薬物治療で治りますが、鼻茸(はなたけ、ポリープ)が多かったり、複数の副鼻腔が高度に障害された例では手術を勧める可能性があります。

急性咽頭炎（きゅうせいいんとうえん）

のど（咽頭）の粘膜やリンパ組織に生じる急性の炎症です。風邪ウイルス（アデノウイルス、インフルエンザウイルス、コクサッキーウイルスなど）によるものが多いです。

のどの違和感や痛み、物が飲み込みにくくなるなどの症状が現れます

急性喉頭炎(きゅうせいこうとうえん)

急性喉頭炎とはのど（喉頭）の粘膜に生じる急性の炎症です。

声がかすれる、声が出しづらい、のどが痛い、などの症状が現れます。

なお喉頭の中でも、声を出す声帯に炎症が起きた状態を急性声帯炎と言います。

急性扁桃炎(きゅうせいへんとうえん)

口の奥にある口蓋扁桃に炎症が起きた状態です。高い熱が出たり、のどの強い痛みが起きます。扁桃炎だけでも十分に痛いのですが、更に悪化すると**扁桃周囲炎**(へんとうしゅういえん)、**扁桃周囲膿瘍**(へんとうしゅういのうよう)に移

行します。ご飯が全く食べれなくなる、口が開かなくなる、首が腫れて赤くなったりした場合は要注意です。そうなった場合には悪化すると時に命を脅かす病気になることがあるので、速やかに耳鼻科に受診してください。

急性鼻炎(きゅうせいびえん)

風邪と言われるのは、主にウイルスによって起こる鼻、のど、気管に起こる急性の炎症を指します。

急性鼻炎とは急性の炎症が鼻の粘膜に起こった、いわゆる鼻風邪で、鼻水やく

しゃみ、鼻づまりのほかに、多くの場合、鼻の痛みや咽頭痛、頭痛、発熱、全身のだるさ、食欲不振などを伴います。ひどくなると中耳炎や副鼻腔炎を起こすこともあります。

中耳炎(ちゅうじえん)

急性中耳炎の場合、痛みや発熱、悪くなれば耳漏(みみだれ)などの症状を認めますが、小さな子どもでは耳の痛みを訴えず、耳を触る仕草や不機嫌になるだけのことがありますので心配になるようなら、早めに診察を受けましょう。

滲出性中耳炎は鼓室(こしつ)内に液体が貯留する病気で音の伝わりが悪くなります。お子さんに非常に多く、難聴が唯一の症状であることが多い為、発見が遅れることが多いです。

慢性化することが多い為、根気よく治療することが大切です。

鼻の奥にあるのどと耳つなぐ管(耳管じかん)の機能が悪いと起こりやすく、特にお子さんは体が未成熟なこともあり、風邪などで鼻水が増えると簡単に耳に回りますのでお鼻のケアをしていくことが重要になってきます。

急性中耳炎、滲出性中耳炎共に、重症であったり、治りが悪い場合は鼓膜切開
や鼓膜チューブ留置を行うことがあります。